薄藝
宇治
栄久堂梓
初篇上

一條帝の御宇秀才の女官ありて近江國石山寺に參籠ス〜八月十五日の夕
とかや琵琶湖に映る月影を見てうかべる趣向を忘やせんと寶の山の大般
若經を佛に乞うけ裏と返しと最愛き物語を著そ〜とうんざれば
其巻代々に傳て名に世系の色あせぬ文に石山の石と共に朽ねが今もそれに
據て作りしも殊に許ヨヨクに知鈍てゆも人真似して彼湖の落口なる
獅々飛ろに一足とび遥流の末の巻宇治十帖を終んと先説のごとき
橋姫の作意のこころもてえらび文に殿て急流に似るべく樣にあらねども
年久く此顧るし先師が若木の由縁の色を無の一本の茂晴の碑の
ある眞土に近き巳樓上の頂石山湖水に映る理性水に月花を浮るあべ此
序に楽しで立も情大般若にあらぬ法花經の巻數く一分八貫九八文
賈人がかれる債券の坐右にあるとを仮くう裏を用て草稿の料にるつ

嘉永庚戌初春　故人柳亭の口調に倣て　柳下亭種員記

橋姫の巻

うちなる
人ひとりの
ちらに
ものこと
ゐるくれて
琵琶
まくれて
ものをる
ゆきるをふ
してゐるに
ものぐるる
月のみうら

今上の御妹
中ノ君
北ノ方
義邦の二女
千里姫

いをあく
さ　いを
きれば
ぞ

八宮の姫姫
大君ふ北ス
足利左馬ノ人
義邦の長女
總角姫

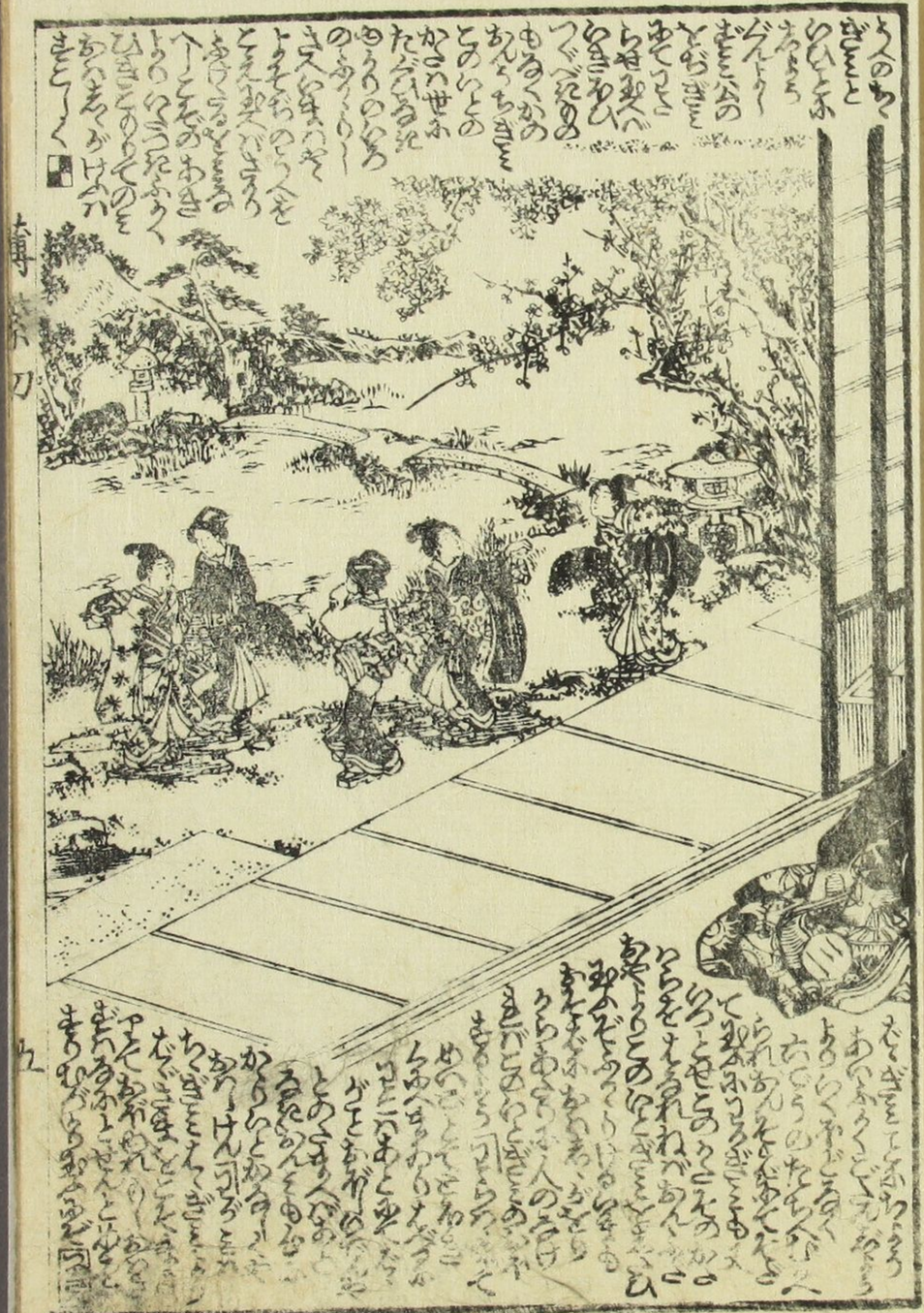
薫大将と比ス
足利
薫之助
光将
燿甚
君の
年老
頃の
御子
弁の君と比ス
侍女早瀬

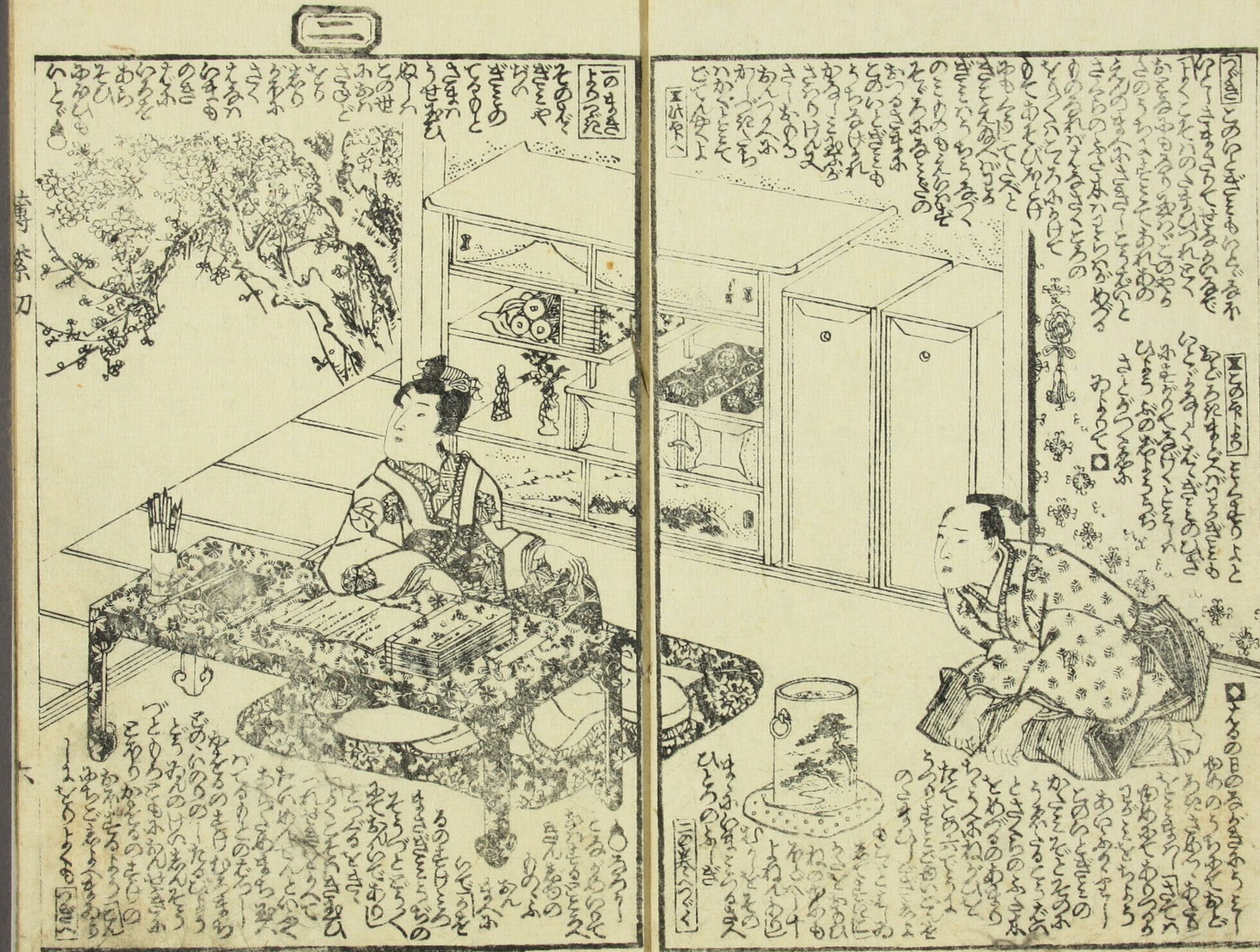
兵部卿の宮と北の足利兵部卿氏卿

将軍義澄公の御子ゆえ輝基君の御女明石上の生まれ

宇治里景色

宇治橋の模様





つゞき
つぎ
あてごと
うけそ
そのあとの
あさみや
こと
ふ
うつまぎ
らぶ
つまと
あれぢを
あるく
たける
みちの
らあ
の日

つゞき

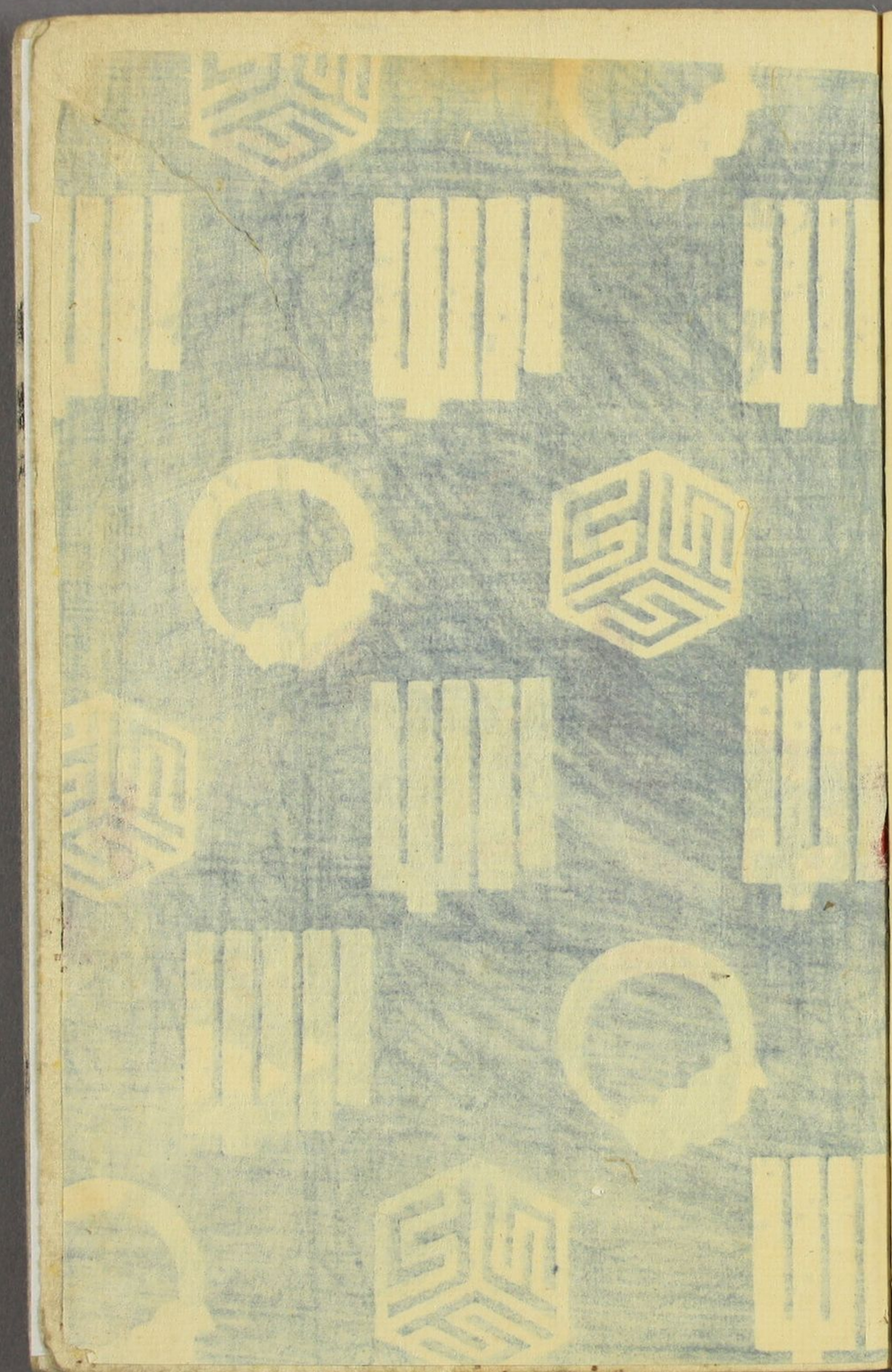
つゞき
ろうぜき
中より
てるのと
さくせい
つゞき

薄紫宇治の曙

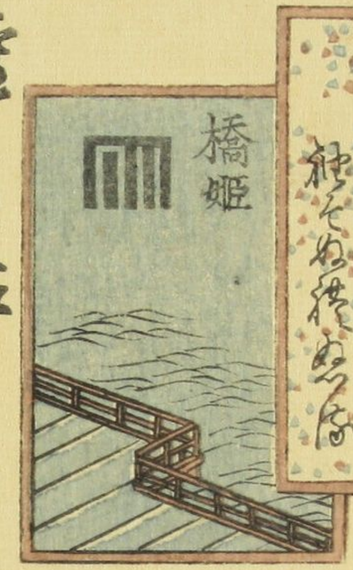
三編八椎がのこの巻まろくとろり徳角と流いづべきのひかり白実紅梅竹うの
乙巻とろく四編五編六編ふつぐるひ老くく橋姫椎がの徳角笛と時代もちゆく色
彼樓閣の像折交れる四名ろう叔それより七編八あけまれと流むこの巻八待ふ
ぬぐろくるれば八編いもつぎぐ〜何事おろぐ〜求古一流くく紅葉帝ふい
大やう治曙初編二編成業日巻出叔付和詩の外巻菊孫の巻ふ
うるひ浪ぐ〜副編ぐ〜ぐみ〜出丸いゆ名遠勢八裏板格外精密ふ仕
分二編ろう七編ふこ今和遠ぐ〜ぐ〜中ル

榮久堂敬白

北斗綿綺卸 江戸よし町 おやぢ橋角 山りや平右衛



種員作
豊国画



宇治曙

初編下の巻

親父橋
山本屋板

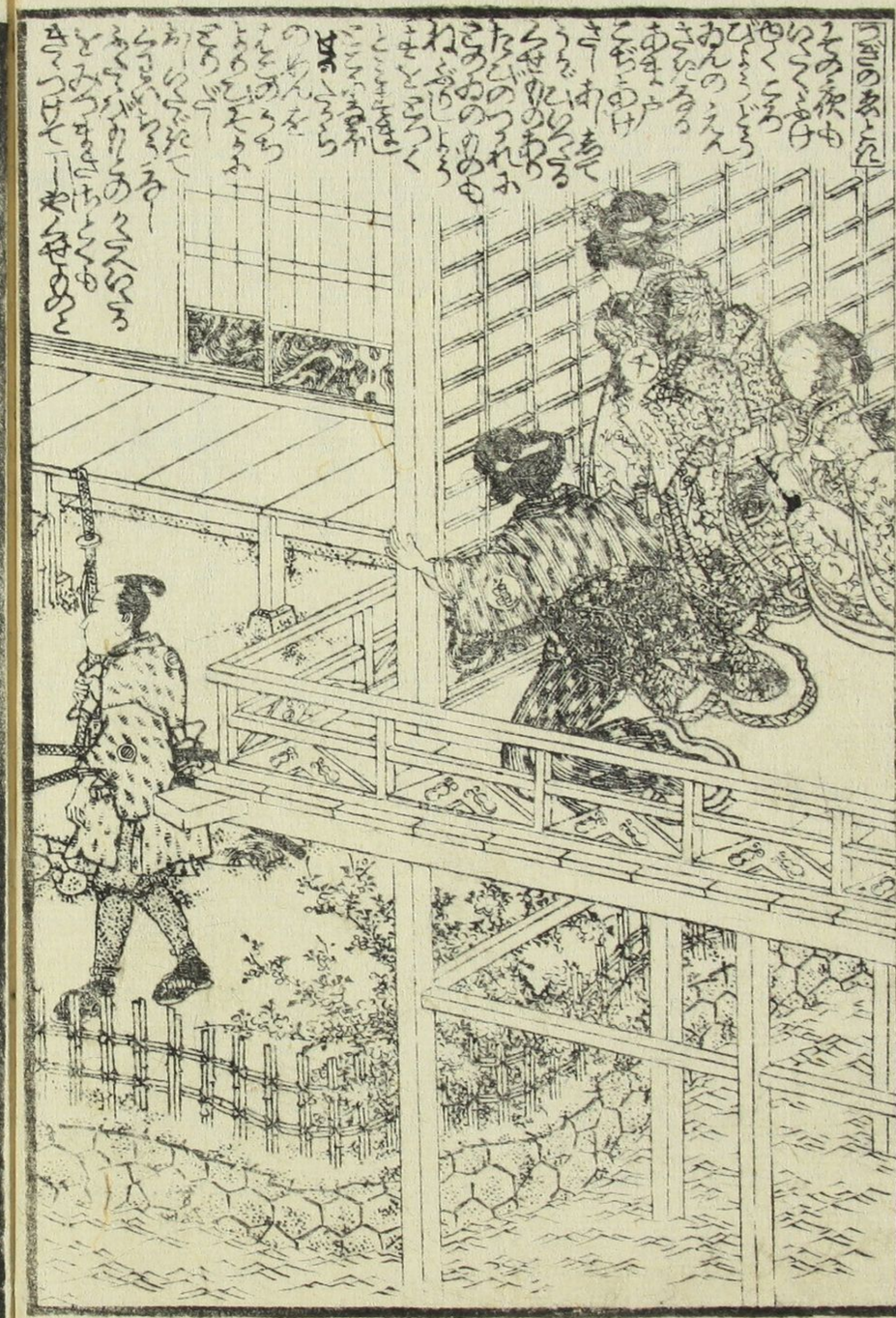
おかめ
種員作
豊国画
初篇下

三

○あの日さまもうぢの川せの
さでるこゝとこぎこけさ
せてあーのきーふのまさ
きんぎとあがく
ひとりのめふーふ
ふがかまくる
さんだーふのわり
ちあるのを
ちゑりとふ
ちゑせたきて
つけちらず
れがかのめく
ふかをつろ
へりぎんお
のろうろう
ひとうぶの
ぢうろちる
さうろるの
まけこうまさ
ひさくーそ
とぎきこふ
こんめんとこんこあ
こふされたらこ
つまつるこの
ようごころう
ぐされーと
ふふんそせんず
ちとあんるりて

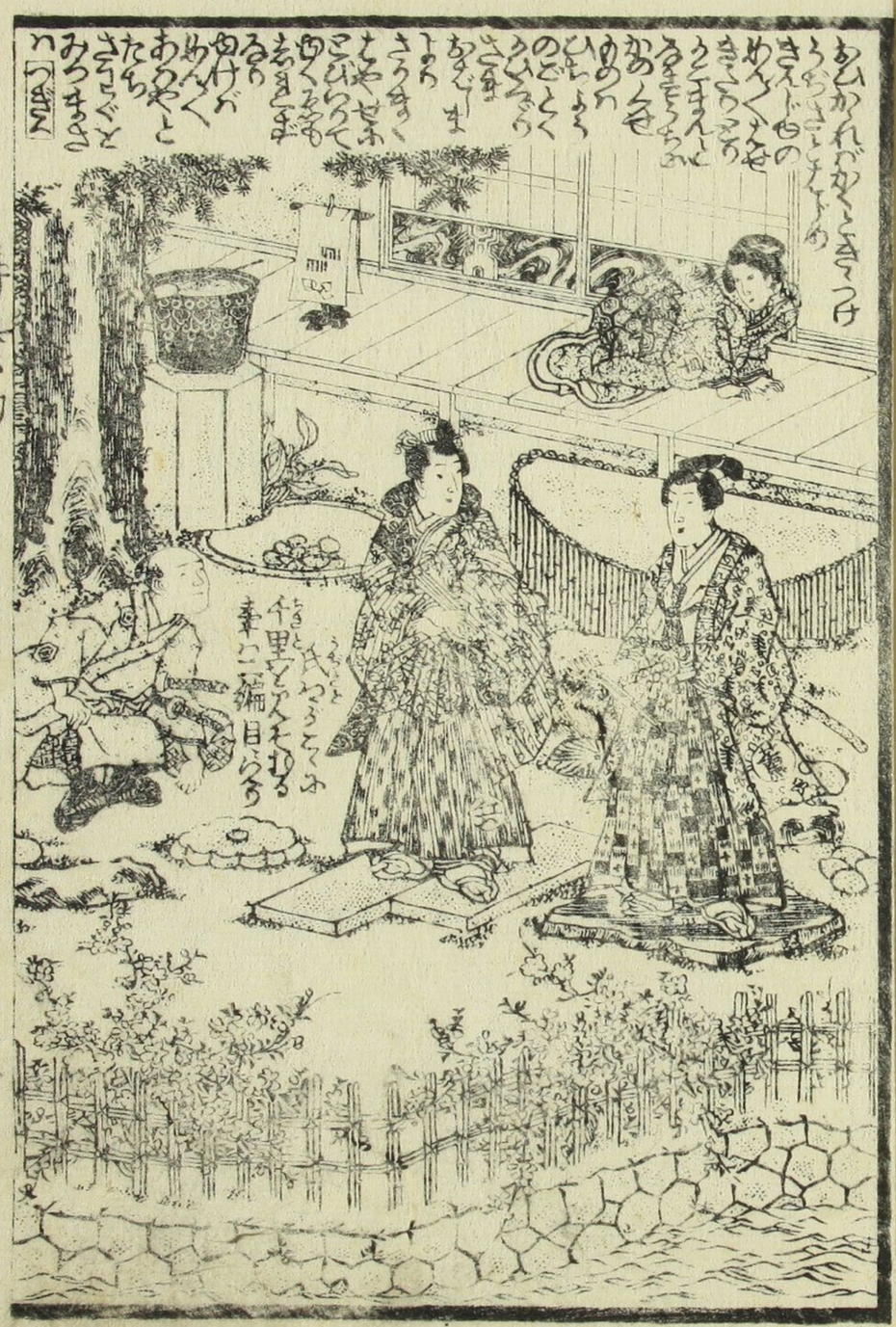
つぎへ

兵部卿宮が初瀬に竜ハ推が本の巻
るれどもあくあハらあげて橋姫の内へかくり



つぎの夜とは

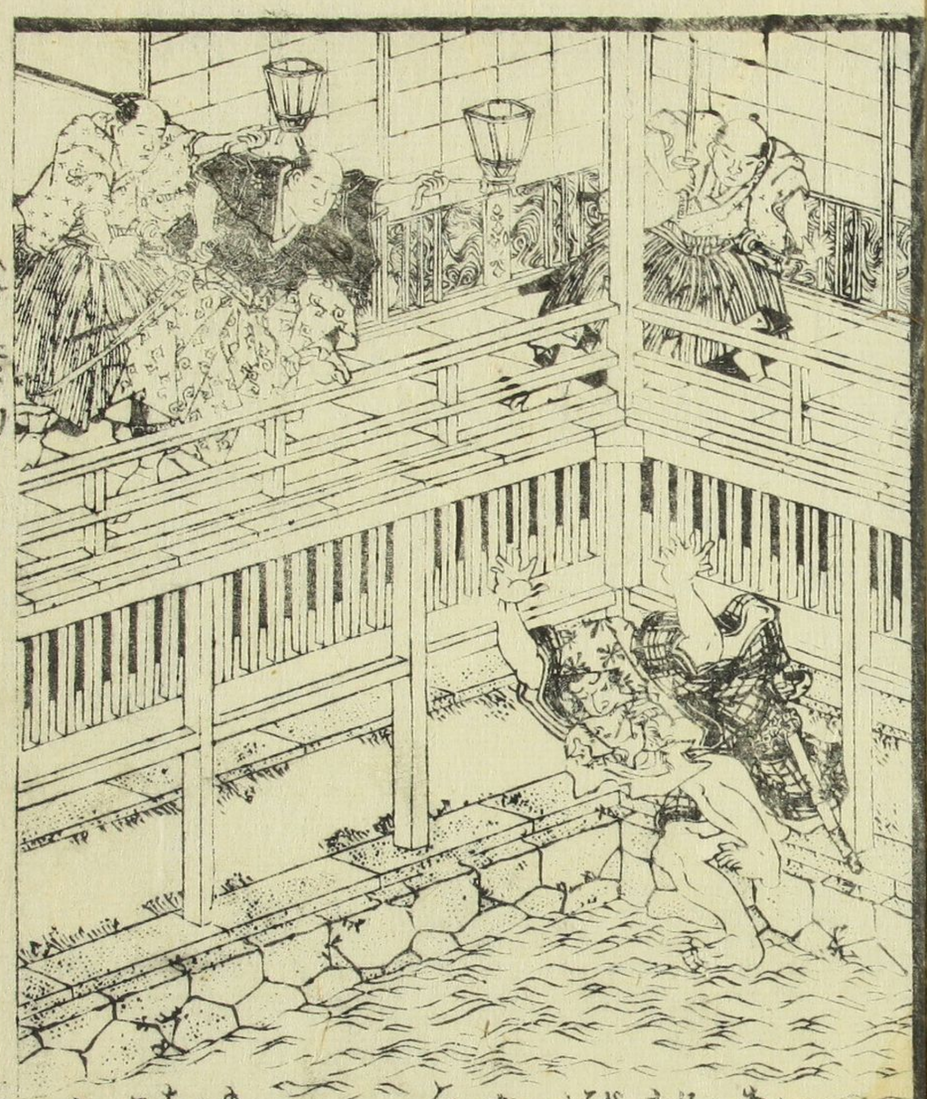
そのよるもいくらかあけやくそくのひとりごろ
おんのえんさんるる
あまど戸
こぢとのけ
さてあちこち
うろぶれめくる
ムをれめくる
たびのつれお
るあのめも
ねぶしよう
まとろく
ときを
ごろうあ
はるこ
のんを
たとのうち
よるとそうふ
ごろうじて
あーいらでたて
ムさんとるえて
ふくるびりとあ
とみろまきにちとくも
きてつけて一ぬくをめと

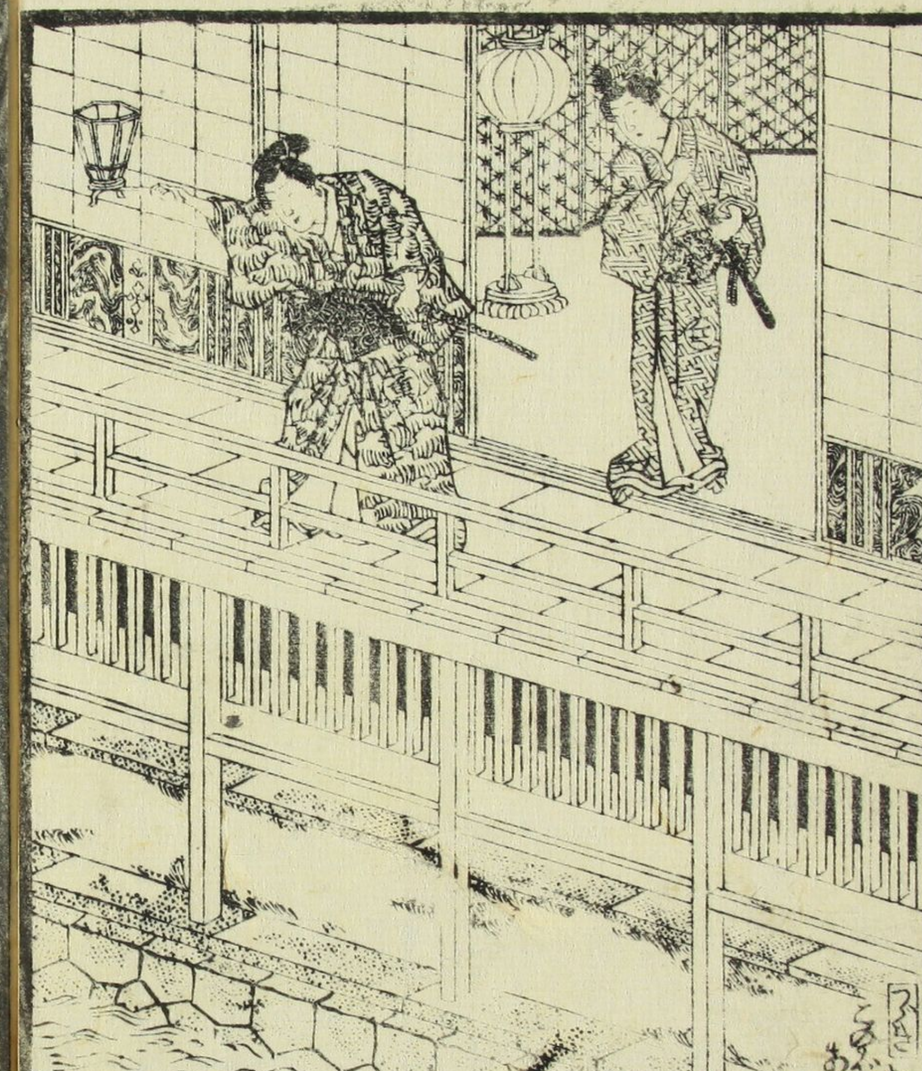


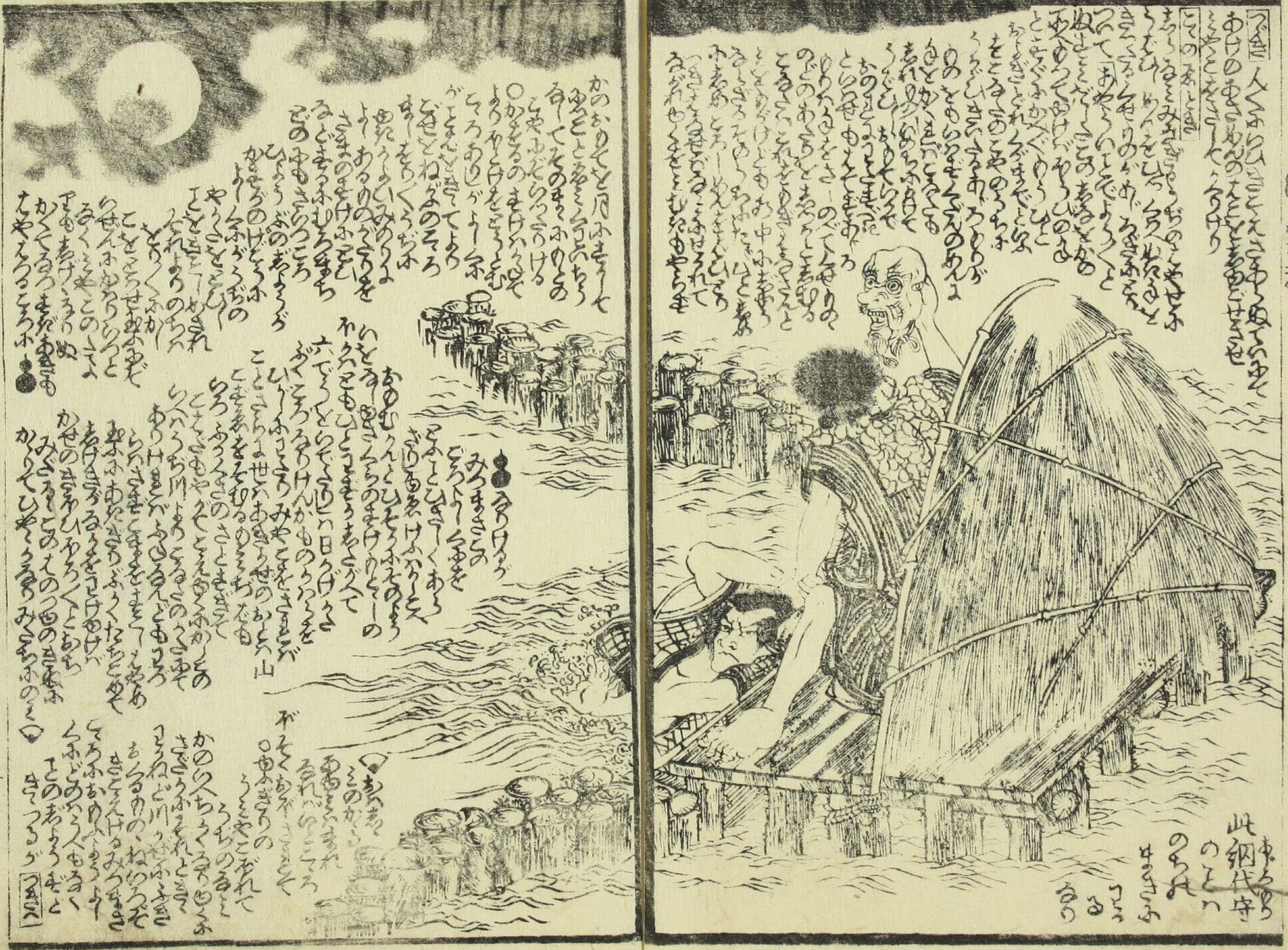
あしかれがかくときつけ
うちさとまたのめ
きえーどものめくくを
きくらこうこ
くまんとるをこうふ
かムを
めのひんふ
のどとく
うんこうふ
さまあぐ
まよ
さうまく
もやせふ
こひらくて
ぬくえも
ちまぼ
るり
ぬけが
めんく
あるやと
たちさ
ぐとみちまさい

つぎへ

千里と氏ゆうこくみ
幸に編目ゆうう







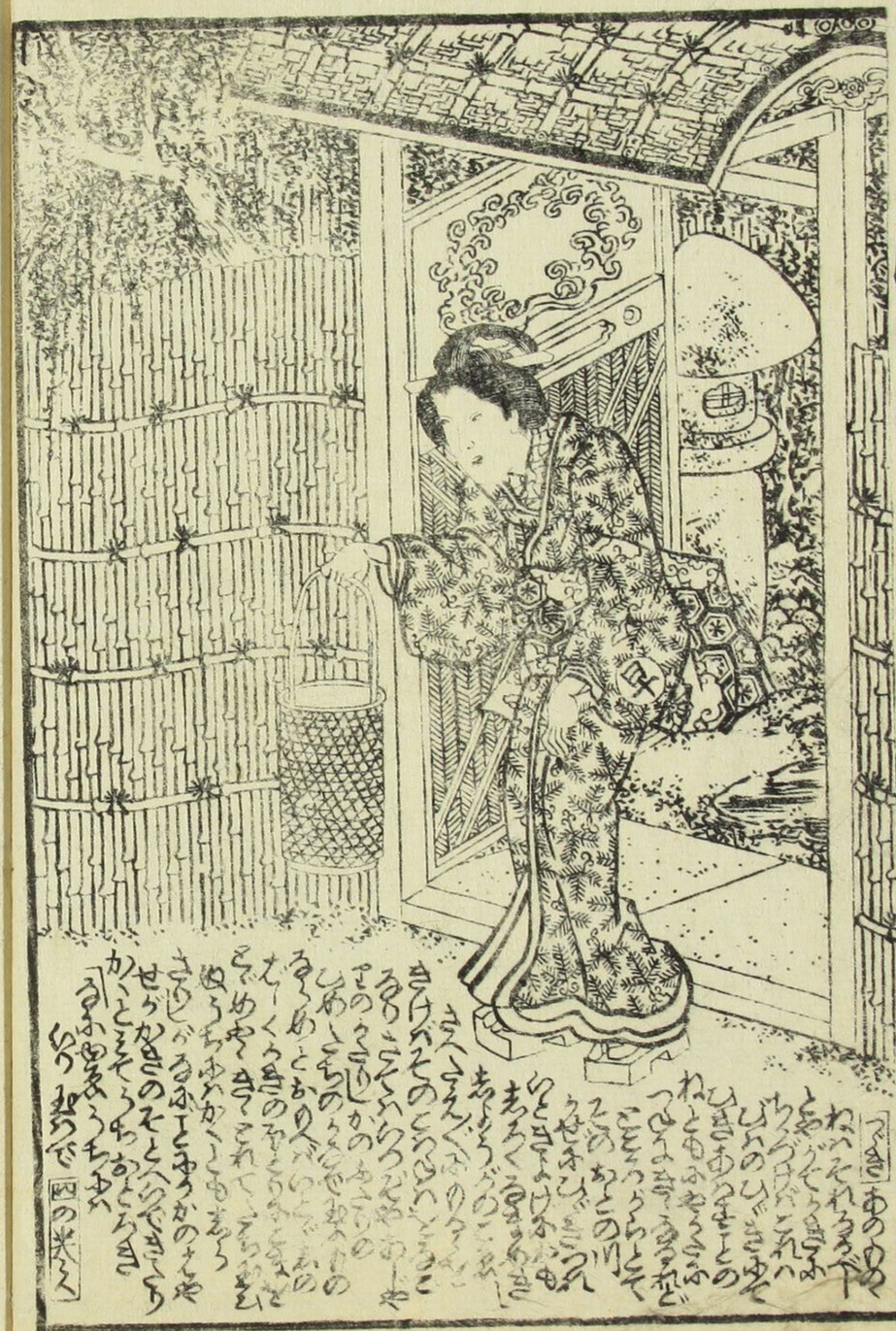
〔つゞき〕人くはらひとさえさし手にぬてゆきて
あけのあさひのたとひとおもひけるが
ミなもとえきこたちけり
〔その次に〕あるさまみだれ[illegible]
[illegible]めんそひら[illegible]
きこえるものめ[illegible]
つゐておやくハとぞよろしく[illegible]
[illegible]このあたり[illegible]
あまりておけれどやうびの[illegible]
とふかくめぐりうひと
[illegible]
をとおてこのこやのうちに
ののともいやまくてえのあんよ
[illegible]
かのまつうつまへつた
とらせもたまはた
ゆれるるよさ一のぞくめの
のどのわくうど[illegible]
とるさいこれその[illegible]
[illegible]
[illegible]

かのおのてと月にふきかして
[illegible]
○かゝるのまけれるぞ
[illegible]
[illegible]
ひやうぶのおもうろ
[illegible]

おのむかしひそかのまけのとーの
[illegible]
ひとふさえみやこをさまたげ
ことさらに世のおさまの世のおしえ山
こまるをまもるのをたちたるも

かのちくちうくるに[illegible]
[illegible]
[illegible]川[illegible]
[illegible]
[illegible]
きてつるが〔つぎへ〕

此網代守のこれのちにはなきふつるなり



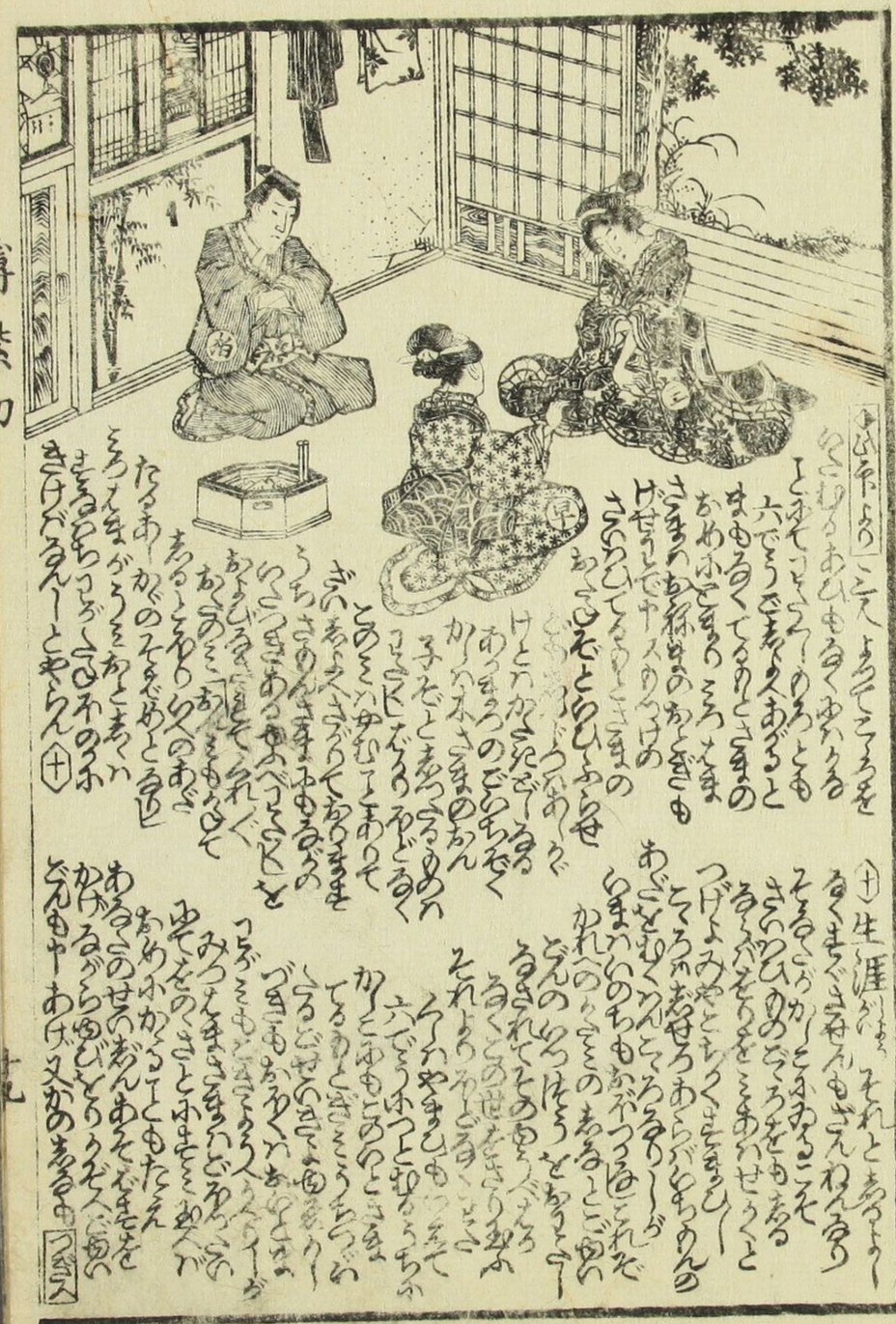
三の巻

遊佐基俊

つゞき　まことハ
たゞりまのまゝ
たゞ山ゆく
あーうぐぐの
うつてとひき
うけぐらりん
のとらぎをろう
ひゐひゐあっ
まつけのごちら
ぞくこふ　この
たゝゆゆもかん
あうまもかん
こふねがこの
あゆゆをる世と
たぐうりてかかゝ
とこゝこゝこゝを
あらこめみやと
ふちこいあゝたらお
うりぎまうひこうぶ
まるのごさい
まいふこうろ
えまさまと
つひひとえさ
のこいひれこう
まのこくも
ふうこうろつる
うらへこそぬ
ゐうとらひ

亀石様子と
たちぎさまる
此さけの
三編おう〜

ととふ又
さのんさま
へいろう
もあれハ
ことこしハ
うちハ
あけそ
るふふの
おこるの
ふこの
ゆきも
こてうが
そうつぎ
そのうちふ
こうとまさまさまの
月のさうりもこう
まるゆがりや
それうと



（十）生涯ゐよ、それとあるよう
なくまぐさまそのもざえれんあう
そうそこがかこふあるこそ
さのつひめのごろをもある
なくぶをうをこゝあいせうくと
つげよみやとちくさまうし
てろのあせろあらばもちめんの
あごをむくれとろるりしーが
らまいいのちもあぶつつ色これそ
れへのらこゝのあるとごめい
どんのいろはうとあうとて
るされてとあのこうべうろ
るくこの世をさうりあふ
それよりやどるくこさ
てわやまもいつえて
六でうふつとやうちふ
かこゆもこのやこさま
てるのこさこうちつい
くるどせのさてよ四をうし
づきもあるくいあやとは
つぶこもこさこうう人うくりイグ
みつこまさまこのこうう
ゆそをのこさとふまこめんば
ありふかるこもたえ
あるこのせのぎんあそをを
かがるぐらゆどとうそ人ごめい
とんもやあげ又かのあるの

つゞき

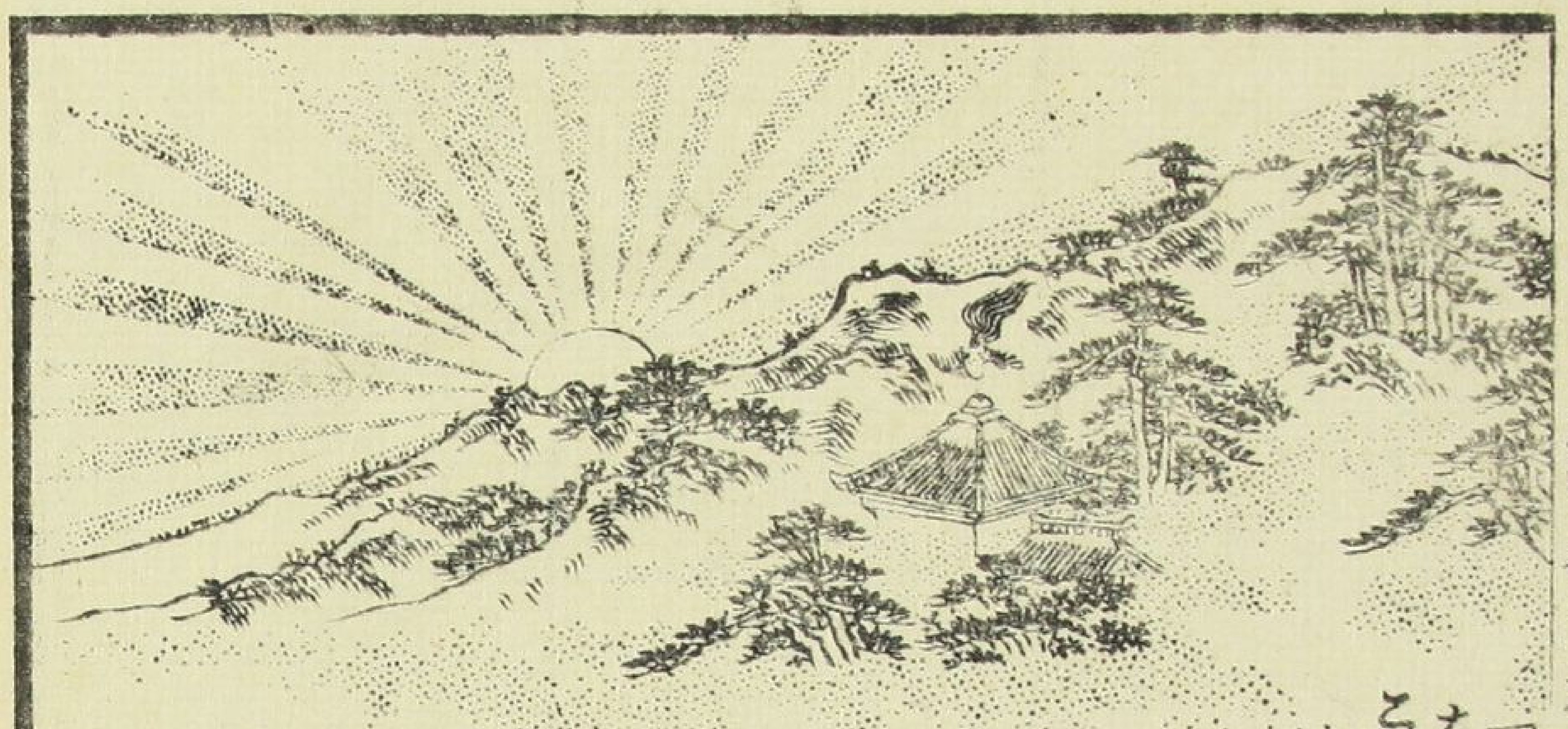
つぎ

さてあけたく
らとせさえふあ
えごやうこそふあ
ごまーこもつそとのと
めてあそこあれとうげ
まあらせえこのわくひ
ありがねんぐさのそろさそ
たるやうこあんやあそ
いらせおしーそあとろろ
たえてしさてえこまぐさと
こあげやあてろのろ
ごしさいんをりのあらぎ
まがやのぐさんよろも
るくけふまうぐいうちまぎ
こもしそまさてくさりん
さまのひきあせ
ゆるるらあこふ月
日もこせあまりさ
こくるさまきあせー
おくこまこのち
うへかいふ
さまふあ
あしこまろ
ちとろで
ちくあうけとう
あそぐせとしてい
あろこまかーそとろいぐを
ふくさぐこいろあせかる

むらさえのもろうこさくも
まのぐしくちまちのこえの
むしめをきくくえれが
ちくぶこのまーこ
をこうーくえの
あるーやるふえス
ゐたんざくあり
ちちひらまて
よこくぐせが
○れをこあて
これいうれ木の
さのうる
ころまさい
あまさこびきえーくー
こいえをつき「あゆゆそれ
とこいあろぐこひちろ
あゆせきこのまこいの
ちじめてこくる
ちりこーこあい
でえそころ
ざえれん
さよとるこ
ぐいそめるこ
たりけりそろこ
とをこのあーまこ
そこふあつが
さあーあそ

○たちぎて
ろゆろその
さまことみつまき
ころくくまこのー
ゐぐくあくぐ
ぐりふをまあ
をこのあこめて
ゐこぐこそこひ
のこまて

つぎ



種員作　豊國画

[illegible]

榮久堂藏版新舊稗目録

新撰太平記
柳下亭種員輯録
一勇齋國芳畫圖
中本袋入　初編ヨリ追々出板

[illegible]

無類彫刻　太平記英勇傳
大錦画　五十番續

一勇斎国芳が筆勢[illegible]

女用文章袖硯
[illegible]　中本　壱冊

[illegible]

風流源氏五十四帖
中形錦画　筥入

[illegible]

東都錦画所
榮久堂山本平吉